

氷見市立 女良小学校



氷見市立 女良小学校

校 長：上野 克成

指導教諭：北川 美和子

発表児童：5年生(6名)6年生(5名)



本校は、氷見市の北西部に位置し、東に蛇が島を浮かべた有磯海が広がり、雄大な立山連峰のパノラマを望んでいる。西の丘陵地帯には、石動山等の史跡が多く、歴史的環境にも恵まれている。

地域の方とのかかわりの中で、「蛇が島学習」「棚田学習」「わかめの養殖体験」等を行ってきており、子どもたちは、これらを女良の宝とし、ふるさとを大切に思う心をはぐくんでいる。全校児童37名が、なかよく、たてわりグループをつくり、様々な活動に取り組んでいる。

発表テーマ

『女良の宝 蛇が島』

天然記念物蛇が島の清掃活動を30年続けています。ゴミ拾いをはじめ、蛇が島の植物・生物の観察や、自然条件・歴史を学んでいます。蛇が島のすばらしさをアピールし、島の自然を守っていききたいとの願いを込め、蛇が島学習で学んだことを発表します。

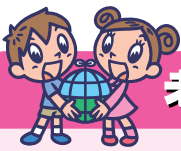
北川 美和子 先生より

女良の自然・人とかわり、「女良の宝」に思いを寄せる子供たち

女良校区には海も山もあり、豊かな自然に恵まれています。子供たちは、蛇が島学習や石動山登山、棚田学習等、様々な活動を通して自然や人とかわっています。

今回の「水みらいプロジェクト」では、蛇が島や長寿が滝、棚田、魚道に詳しい方々の話を聞くことができました。子供たちは、大人の人がこんなにも熱く語られる様子を見て、女良の自然を守っていききたいと同時に、地域に詳しい人、地域を守る努力をしておられる人もまた女良の宝だと思ようになりました。

これからも、女良の一番の宝である子供たちと共に、「女良の宝」を発掘していきたいと思います。



考えたこと! 感じたこと!

虻が島の自然を守りたい

藤島 政樹(6年生)

今年虻が島学習をするまでは、虻が島は去年よりごみやアオサギの糞などで汚れているのではないかと心配していたけれど、今年は去年よりきれいだったし、クロサギの巣と雛も見ることができてよかったです。意外だったのは、松の木をはじめとする多くの植物が人の手で植えられたということと、それらが弱ってきているということです。姿地区の方ががんばってくださったおかげで、きれいになっていたけれど、植物が弱ってきているのでとても残念です。珍しい植物が生息しているので、守りたいです。

生き物は、虻が島が住みにくくなったら、別の場所へ移動すると思います。そうしたことがないように守っていきたくと思います。



▲女良の宝! 30年間続く伝統的な活動「虻が島学習」へ出発



▲「虻が島清掃」外国から流れてきたもの、人が捨てたものがいっぱい



▲「虻が島学習」植物と生き物観察。ウミウシを捕まえました。



▲「長寿が滝」絶滅危惧種のシダの観察やカワトンボを発見



▲「長坂の棚田」総合学習の発表の場そして田植え・稲刈り体験



▲「魚道」海から勢いよく登っていく魚を見ました。

学習テーマの設定

海にも山にも宝がある

女良小学校は富山県の西北部、石川県との県境にあります。学校の前に広がる海、そして海越しに見える立山連峰は最高です! 女良には海にも山にも宝があります。



さまざまな活動から学ぶ

30年間続く虻が島学習をはじめ、石動山登山や棚田学習など、海や山でのさまざまな活動から、いろいろなことを学び、自分たちができることを考えよう。

学習の展開

恵みの山・石動山に登る

石動山や棚田は女良の“山の宝”です。およそ海拔0mの学校から565mの石動山山頂まで約9kmを3年生以上全員が登ります。遠くに富山湾が見える眺めのよい山頂には霊水が湧いています。



山の池でイワシがとれた?

昔、山には300以上のお寺があり、戦いに巻き込まれ食物がなくなったとき、たくさんイワシがとれたと伝えられているイワシが池。海と山はつながっているのかな?

生き物がいっぱいの島

虻が島は富山湾最大の島で、県の天然記念物、能登半島国定公園の特別保護区域に指定されています。虻が島学習を通して、女良の“海の宝”の魅力を見つめました。



海と山は水でつながる

北方系と南方系の両方の植物が生き、海の宝石・ウミウシの宝庫でもある虻が島。海の生き物たちは、川の水が汚れ、海水が汚れると生きられません。海と山は水でつながっているのです。

熱い思いを受けつぎます

活動のなかで出会った地域の方や研究者の先生はみなさん熱く語られ、自然を大切に思う気持ちがよくわかりました。私たちもずっと虻が島学習活動を絶やさず、女良の宝をいつまでも守っていきます。

